

# 雅楽だより

## 《目次》

●舞を聴く 宮内庁式部職楽部首席楽長 東儀博昭	1	●笙の和音的解明(上) その二 芝祐泰	5
●現代音楽の中の笙 清水チャートリー	3	●ガラスの笙 篠篥 龍笛を製作	6
●菩提庵那の墓を訪ねて 塚本増能	4	●情報欄	6
●現代語訳『楽家録』(11) 遠藤徹	4	●ヨシ原焼き	8

第49号  
発行

2017(平成29)年4月  
雅楽協議会

## 舞を聴く

宮内庁式部職楽部首席楽長

東儀 博昭

(2月25日 国立劇場雅楽公演)

『舞樂』プログラムより)

今回の『太平樂』上演にあたり、経験者としての思い出やエピソードを執筆して欲しいとの依頼に応え、舞い手の視点からお話をしたいと思います。

『太平樂』は、左方の舞楽の中で最も絢爛豪華な装束を纏う演目です。足袋・襦袢・小袖・糸鞋・赤大口までは常装束と同じで、そこに別装束が加わり、袴・臑當・籠手・鎧・肩喰・帶喰・金帯・太刀・平緒・垂平緒・魚袋・胡籠・兜・鉾などの具足を身に着けます。材質は絹、金物、革、木材、漆、螺鈿などで、卓越した名工によって全てが作られています。各々の技術と芸術性の高さは驚嘆するとともに、日本に培われた伝統を誇りに思います。

その着付けには、プロの装束師をもつても一人あたり二十五分かかりますので、四体の武者人形の完成までにはおよそ百分を要します。身に着ける品物は素から数えて細かなものまで含めると二十六点、全部で五十七本もの紐でしっかりと縛り上げる様に着付けられます。下駄から着装するので四駄は待ち時間が一番長くその間に動けば動くほど紐の締

め付けがきつくなっています。

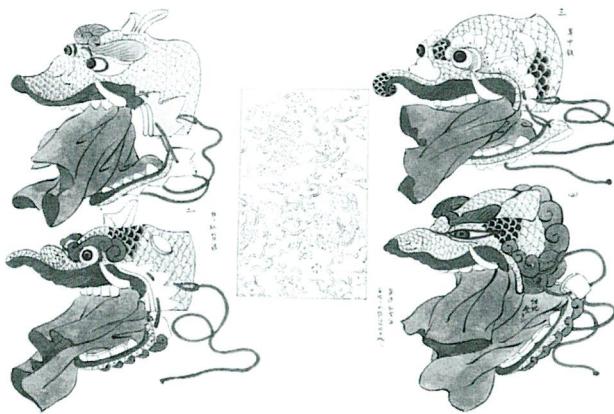
『太平樂』の装束は、公演案内でも紹介されているように、鎧、兜、太刀、鉾、肩喰、帶喰などの具足が特徴的です。今回はこれらを中心にお話を進めます。樂が始まると、まず全長二メートル三十三センチほどある鉾を舞台に立てる所作があります。この時、石突が舞台を「トン」と突きますと、麒麟の角に似ていて先端が二つに分かれた鉾先の下の鎧（丸く膨らんだ部分）と鉾鰐の間で、左巻き四重に蛇局を巻いている木蛇が振りに添つて「ガチガチ」と動きます。この木蛇で思い出されるのは、蛇の頭は纖細だから氣を付ける

ようにとの先輩からの教訓です。かつて舞人が向き合って舞台に置いた鉾を引き寄せる所作で交差接触して蛇の頭が落ちてしまつた時撤収の作法は『還城樂』の蛇持の準法にも記されてありませんので、舞人が一列になつて舞台から退く入手

連れて帰つたことがあつたそうです。『太平樂』の豪壮な兜は、漆塗りの革と金属で出来ており、測つてみると鉾の横幅が約四十五センチ、重さは二・六キログラムありました。しかし、舞人の体感としてはもつと重く感じます。と申しますのも、兜は頭に直接付いているのではなく、百重刺をするこ



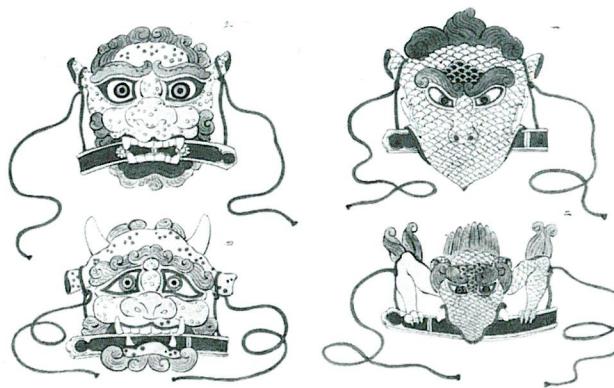
国立劇場第46回雅楽公演「舞樂」  
「太平樂一具」を舞う筆者(平成11年6月)



『太平樂』肩喰の図（『雅楽図譜』上野学園大学日本音楽史研究所蔵）

空間があつて、ちようど鐘の真下にいるような状態となるため、舞い手には「ゴーン」と音が鳴り響いて聞こえ、首にも負担がかかります。また、矢を携える者の兜の吹返は、弦の障害にならないよう可動し、天辺にあるのはチョウチンアンコウの提灯ではなく、火を調伏する水煙と言う物で、動くようになっています。前立も遊びを持って取り付けられていますので、顔周りでは「キイキイ」と金属の擦れる音がします。

鎧は、三百三十七個の革製の小札で組まれており、動くと「ミンミン」と軋む音がします。その下方に付いた三十五個の鉢は「シャン」と鳴ります。



『太平樂』帶喰の図（『雅楽図譜』上野学園大学日本音楽史研究所蔵）

ひときわ目をひく龍の様な顔をしている肩喰は、あたかも丸飲みされる途中で腕だけがまだ残っているかのように見えるでしょう。これも上顎と下顎の間から手を通して着付けているため、動く度に「カボカボ」肩を食っている音がします。肩喰は一羣から四羣まで皆違う顔形で、上羣の二人には角があり、一羣の角の方が大きく、手を上げる毎に首めがけて向かってくるので、恐怖を覚えます。腹に据えてるのは帶喰と言い、聖獸が費を咥えています。これも皆違う種類で、下羣は鬼の様な形相、上羣になると龍を思わせる顔付きになります。帶の咥え方もそれぞれ違い、三羣だけは左右に動くようになつていて

日本の匠が丹精を込めて伝承してきた技があるからこそ聞こえる「音」があります。DVDやCDなどでは決して再生できない生きた舞台を、心の目で聴いて、耳で見て体感していただければ幸いに思います。

聞くと安堵いたします。装束と具足を全て外した後には、下顎、両肩、腹回り、両手首、向こう脣に拘束跡がクッキリと彫り込まれています。さらに、革と金属で出来た三枚の板状のパーツを蝶番で繋いだ膳当が、跪いたりおちり落居をする度に足の甲を圧迫するため、紫色の痣となって奮闘の証を残します。

腰に佩びた太刀の柄には手貫縒と言う紐が垂れ下がつていて、その先端の雲金くもがねが唐からの所作では、鐔に指をかけて刀を抜く音や、鞘さやに納める時に一齊に「パチツ」と音がして当たる度に「カチカチ」と音がします。拔劍ばくけんかと思ひます。

故に装束に目が奪われがちですが、来るべき  
新たな時代の天下太平を祈念する舞振りが取  
り入れられた叡智に満ちた舞ですので、御代  
の代わり目に必ず舞われる所以があります。  
先達が万感の思いを込めて創ったであろう  
技と志を受け継ぎ、古人たちが完成させた姿  
をそのまま後世に真摯に伝えていくことが、  
我々の責務だと思っています。

　演目に触れる機会の希少さ、そして勇壮華  
麗な舞振りと精美しく精妙の極みといえる装  
束、具足に、それらの音も加え、見どころ・  
聞きどころに溢れる『太平楽』を堪能し尽く  
していただきたいと思います。緞帳が降りる  
その瞬間まで。



国立劇場第46回雅楽公演「舞楽」「太平楽一景」(平成11年6月)

## 現代音楽の中の笙

### ～ニューヨークからの視点～

作曲家 清水チャートリー

ニューヨークでは、日本の伝統音楽や伝統芸能に触れる機会が数多くある。マンハッタン区には、日本文化や芸術分野において数多くの公演やシンポジウムなどを開催しているジャパン・ソサエティやアシア・ソサエティがある他、コロンビア大学には雅楽や邦楽のアンサンブルが存在する。また、カーネギーホールでは毎年、歌舞伎や能など、日本の伝統芸能を堪能することが可能である。多くの日本文化関係者のたゆまぬ努力の結果、日本の伝統文化は着実に米国の幅広いオーディエンスに浸透してきている事実が見えてくる。



『四季と雲海II』譜面

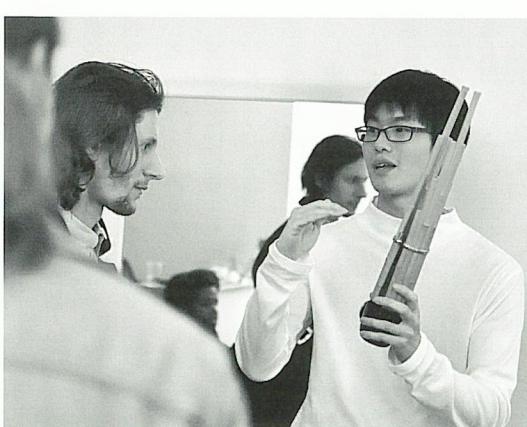
ニューヨークでは、日本の伝統音楽や伝統芸能に触れる機会が数多くある。マンハッタン区には、日本文化や芸術分野において数多くの公演やシンポジウムなどを開催しているジャパン・ソサエティやアシア・ソサエティがある他、コロンビア大学には雅楽や邦楽のアンサンブルが存在する。また、カーネギーホールでは毎年、歌舞伎や能など、日本の伝統芸能を堪能することが可能である。多くの日本文化関係者のたゆまぬ努力の結果、日本の伝統文化は着実に米国の幅広いオーディエンスに浸透してきている事実が見えてくる。

この多様で活気溢れる大都市を拠点に作曲活動をしていると、日本の現代音楽事情について質問されることがよくある。そこで、日本の音楽教育は西洋音楽に基づいており、音楽大学の作曲科のカリキュラムも、主に西洋音楽の作曲技法や理論、管弦楽法を中心に構想されていると述べると、驚かれることがある。日本には独自の美学を誇る伝統音楽があり、特有の音色を奏でることができると述べると、驚かれることがある。日本には独自の美学を誇る伝統音楽があり、特有の音色を奏でることができると述べると、驚かれることがある。日本には独自の美学を誇る伝統音楽があり、特有の音色を奏でることができると述べると、驚かれることがある。

笙という楽器の存在を私が初めて知ったのは、高校の図書館でたまたま聴いた、ある一枚のCDに収録された音源だった。それには曲名のみならず、作曲者名や演奏者名も記載されておらず、その音楽が細川俊夫の『ランドスケープV』(1993)であるという事実を突き止めるまで、数ヶ月かかった記憶がある。しかし、天に届くような音の広がりを響かせるこの楽器に衝撃を受けたことは、今までほつきりと覚えている。

大学時代、宮田まゆみ先生の笙の授業を受講し、初めて笙という楽器に触れることができた。2015年夏には、コロンビア大学雅楽アンサンブルの一員として、Mentor / Protégéプログラムに参加させてもらった。私は笙の演奏家ではないが、笙のための作品を作曲する上で、古典曲を学んだ経験が非常に役に立っている。古典音楽から大きく乖離する現代音楽を作曲する上で、古典音楽の基礎的な知識は欠かせないからである。

米国で笙のための新作を初演するのは困難である。



ワークショップ

だ。笙奏者が少ない分、笙のための作品を委嘱されることは、ほぼない。しかし、オーディエンスの笙に対する関心度は、日本以上かもしれない。私はこれまでに『四季と雲海II』(2014)や『EROSION』(2016)など、笙のための合奏曲を何曲か作曲してきた歴史がある。時代の変化とともに、記譜法、奏法、そして楽器そのものも進化してきたことが窺える。それと比べ、雅楽は何百年もの間同じ古典音楽が演奏され、その間に新曲が作られたかどうか定かではない。日本では、雅楽は「伝統音楽」のコンテキストで語られる。伝統とは守られるべきものであり、斬新な発展や価値観の新調は、あまり好まれない。私はこれまでに『四季と雲海II』(2014)や『EROSION』(2016)など、笙のための合奏曲を何曲か作曲してきた歴史がある。時代の変化とともに、記譜法、奏法、そして楽器そのものも進化してきたことが窺える。それと比べ、雅楽は何百年もの間同じ古典音楽が演奏され、その間に新曲が作られたかどうか定かではない。日本では、雅楽は「伝統音楽」のコンテキストで語られる。伝統とは守られるべきものであり、斬新な発展や価値観の新調は、あまり好まれない。私はこれまでに、マンハッタン音楽院やペルトリコ音楽大学などに呼んでもらつた際に、笙の特殊奏法や記譜法について特別講義を行ってきた。現代音楽というコンテキストの中で、笙という楽器が当たり前に使われる日が来るのは、まだ先のことかもしない。しかし、楽器の技法的知識と、歴史的・文化的コンテキストを世界の作曲家に学んでもらうことにより、古典音楽と現代音楽の間に存在する大きな隔たりを、少しづつ埋めていくかもしない。

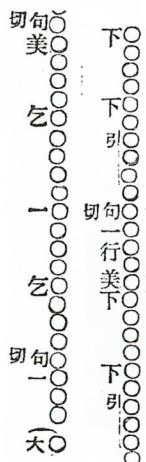
(清水チャートリー 作曲家 1990年、大阪生まれ。10代の大半をシンガポールで過ごす。国立音楽大学を首席で卒業と同時に有馬賞を受賞。奨学生として米コロンビア大学



よい。

太鼓に当てた後の一文字は、これもまた六つに当てるのがよいであろう。（以上、毎句切るのがよい）

「蘇合」の詞（旋律）を例に左に図を示す。笛、簫篥もまた、笙の譜の説に従つて、その大意を知るのがよい。



## 竹生の和音的解明(上)

藝術院會員  
竹生祐泰

その一

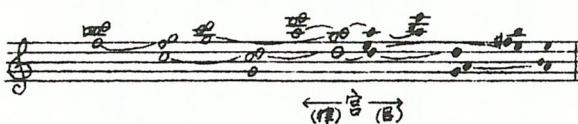
十一月各一笙の論

古代支那で毎月定めの調による音楽を奏する為の「十二笛之制」に倣つて、笙にも月毎の奏楽に適応するものを作らんとした論があつた。

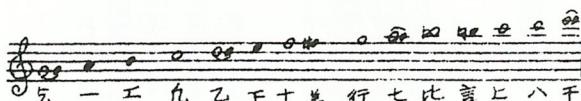
十一月各一笙の論  
(下 譜面)  
各宮音に其の調の微音が記される筈であるので、前項に述べた雅楽和音連繋で其の宮（根音）を替えて和音連繋を進行させると、各宮音を異にした笙を完全に作り（調律）得るのである。爰に雅楽各調宮の笙を和音的に表して見ると、次の如き和音連繋と各笙の保持音となるのである。

如斯、笙調律の根音（宮）を「乙」の管に各調毎に代えて置いたもので、洋楽器クラリネットにA管、B♭管、E♭管のある如く、奏者の運指には何らの変化もなく異なる調の笙を吹奏し得、実際の發音は異なる律（音）となるのである。

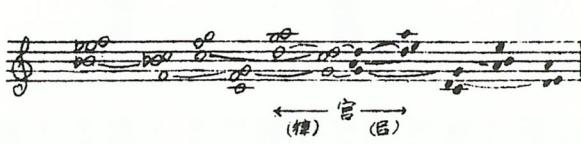
### 推定 色鉦宮笙の和音連繋譜



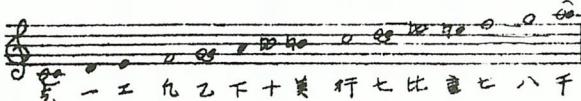
### 推定 彩鉦宮笙の保持音



### 推定 双調宮笙の和音連繋譜



### 推定 双調宮笙の保持音



唐時代より笛も一管にて各調を奏する事となり「十二笛之制」は、古代支那音律理論上の立証的な事蹟となつた現代、前述の推定各調の笙など必要なきものであるが、笙保

とあつて、十二笙を作る論は採用されず、各均各調に一管の笙が用いられて來たのである。

この様に各律を宮とする十二笙を作る論があつた事を考へ、現実に黄鐘(B)を宮としている事を見れば、現代伝えている笙は「十二笛之制」に記されている第一管

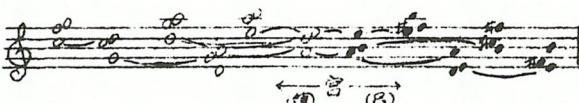
「黄鐘之笛 正声應黃鐘 下徵應林鐘 長二尺八寸四分四厘有奇」

とある笛に対応した笙の第一管に相当するものと推考されるのである。

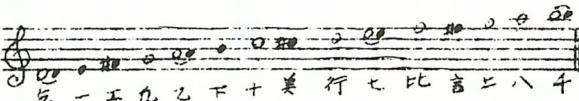
### 雅楽各調宮の笙保持音推定

そこで「十二笛之制」の論により各律別の笙が実現した場合は、どの調に対応する笙も各々最低音に其の調の微音が記される筈であるので、前項に述べた雅楽和音連繋で其の宮（根音）を替えて和音連繋を進行させると、各宮音を異にした笙を完全に作り（調律）得るのである。爰に雅楽各調宮の笙を和音的に表して見ると、次の如き和音連繋と各笙の保持音となるのである。

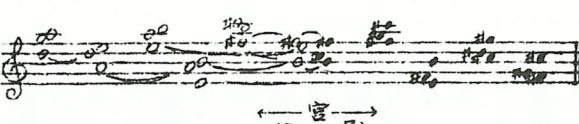
### 推定 黄鐘宮笙の和音連繋譜



### 推定 黄鐘宮笙の保持音



### 推定 盤渾宮笙の和音連繋譜



### 推定 盤渾宮笙の保持音



なるのである。  
古代支那音楽

に行われた月毎に定めた調を奏する場合の「十二笛之制」に対して、理論上はここに述べた各調用の笙が應ずべきものであるが、それが調律上の困難から、笙は一管にて何調をも奏する楽器となり、笛類の旋律を追い難く「四黄齊鳴」即ち四声和音を奏する事が発達したものと考えられる。



演奏 横浜雅楽会 問合せ Tel 045-531-0150	演奏 天王寺樂所雅亮会 有志 問合せ Tel 06-6672-0753
<b>大和舞・東遊奉納 春日大社 (奈良)</b> 4月29日 (土・祝) 午後4時 大和舞 東遊 問合せ Tel 0742-22-7788	<b>ボンクリ・フェス2017</b> スペシャル・コンサート (東京) 5月4日 (木・祝) 午後5時半 東京芸術劇場コンサートホール
<b>舞楽神事 熱田神宮 (名古屋)</b> 5月1日 (月) 午前10時半～午後3時 振鉢 承和楽 仁和楽 甘州 林歌 迦陵頻 散手 貴徳 長慶子 演奏 熱田神宮桐竹会 問合せ Tel 052-671-4151	S席3000円 A席2000円(全席指定) 武満徹作曲秋庭歌一具より 第4曲秋庭歌 他 演奏 伶樂舍 他 問合せ Tel 0570-010-2966
<b>高岡御車山祭ユネスコ無形文化遺産 (富山)</b> おめでとう雅楽コンサート (富山) 5月1日 (月) 午後1時半より 無料 高岡市民会館 (高岡古城公園内) ロビー 管弦 越天樂 五常樂 嘉辰 拾翠樂 ほか 演奏 洋遊会	5月4日 (金・祝) 午前11時40分 下鴨神社 東遊 午前11時40分 上賀茂神社 東遊 午後3時半 演奏 平安雅楽会
<b>聖武祭 東大寺 (奈良)</b> 5月2日 (火) 午後1時 舞楽 迦陵頻 胡蝶 ほか 演奏 南都樂所 問合せ Tel 0742-22-5511	<b>菖蒲祭奉納 春日大社 (奈良)</b> 5月5日 (金・祝) 午前10時 りんごの庭 無料 午後1時 万葉植物園 入園料大人500円 管絃 壱越調音取 蘭陵王 舞楽 振鉢 迦陵頻 胡蝶 北庭樂 八仙 長慶子 演奏 南都樂所
<b>神樂祭 西宮神社 (兵庫)</b> 5月3日 (水・祝) 午前11時 舞楽 嵐島五常樂 万歳樂 演出 女人舞樂原笙会 問合せ Tel 0797-23-1886	<b>菖蒲祭 鶴岡八幡宮 (神奈川)</b> 5月5日 (金・祝) 午後2時 舞楽 曲目未定 演奏 東京樂所 問合せ Tel 0742-22-7788
<b>5月5日 (金・祝) 午前11時 (舞楽 嵐島五常樂 万歳樂)</b> 舞楽 蘇利古 胡飲酒 5月10日 (水) 午前11時 (蘇利古) 出演 女人舞樂原笙会 問合せ Tel 0797-23-1886	<b>御蔭祭 下鴨神社 (京都)</b> 5月12日 (金) 午後3時 切芝神事 東遊 演奏 平安雅楽会 問合せ Tel 075-781-0010
<b>5月5日 (金・祝) 午前11時 (舞楽 嵐島五常樂 万歳樂)</b> 舞楽 蘇利古 胡飲酒 5月10日 (水) 午前11時 (蘇利古) 出演 女人舞樂原笙会 問合せ Tel 0797-23-1886	<b>錦天満宮 春季大祭 (京都)</b> 5月25日 (木) 午後2時 舞楽 納曾利 蘭陵王 演奏 平安雅楽会 問合せ Tel 045-531-0150
<b>5月5日 (金・祝) 午前11時 (舞楽 嵐島五常樂 万歳樂)</b> 舞楽 蘇利古 胡飲酒 5月10日 (水) 午前11時 (蘇利古) 出演 女人舞樂原笙会 問合せ Tel 0797-23-1886	<b>第13回 雅楽道友会「たけの音」 (東京)</b> 5月25日 (木) 1部・2部合せて2000円 大井町きゆりあん小ホール 1部 午後3時半開演 管絃 平調越天樂 陪臚 林歌 舞楽 賀殿急 2部 午後6時半開演 管絃 太食調音取 新豊長慶子 舞楽 左方 胡飲酒 右方 蘇利古
<b>斎王代以下女人列御禪の儀 下賀茂神社 (京都)</b> 5月6日 (土) 午前11時 曲目未定 5月10日 (水) 午前11時 (蘇利古) 出演 女人舞樂原笙会 問合せ Tel 0797-23-1886	<b>博雅会第29回雅楽公演大阪公演 (大阪)</b> 5月12日 (金) 午後6時半 大阪市立阿倍野区民センター小ホール 前売3000円 (当日券500円増) 学生1000円
<b>卯之葉神事 住吉大社 (大阪)</b> 5月4日 (木・祝) 午前10時 雅楽奏樂 演奏 平安雅楽会 舞楽 振鉢 迦陵頻 蘇利古 陪臚 長慶子 問合せ Tel 080-2415-2347 (イ)	<b>第13回 雅楽道友会「たけの音」 (東京)</b> 5月25日 (木) 1部・2部合せて2000円 前売3500円 (当日券500円増) スクエア荏原ひらつかホール (武藏小山駅下) 車徒歩10分) 管絃 八仙破・八仙急残樂三返 歌謡 朗詠 二星 舞樂 振鉢 延喜樂 主催 株式会社皆中 出演 博雅会 ゲスト 豊英秋師
<b>伶樂舍雅楽コンサート no.32</b> 新しい雅楽 次の世代へ (東京) 5月25日 (木) 午後7時 四谷区民ホール	<b>春の舞樂会 六華苑 (三重県)</b> 5月27日 (土) 午前10時、午後1時 28日 (日) 午前10時、午後1時 舞樂 春庭花 胡蝶 甘州 還城樂 ほか 主催 多度雅樂会 問合せ Tel 0594-48-3484
<b>漏刻祭 近江神宮 (滋賀)</b> 6月10日 (土) 午前11時 舞樂 八仙 出演 女人舞樂原笙会 問合せ Tel 0797-23-1886	<b>声明付楽 演奏 平安雅楽会</b> 5月30日 (火) 午前11時 声明付楽 演奏 平安雅楽会 問合せ Tel 0594-48-3484
<b>藤家漢子作曲 瞳の色は夜の空</b> 復元樂器のための 伊左治直脚本・作曲 踊れ！つくも神童子 丸てんてこ舞いの巻 (全曲委嘱初演) 東野珠実作曲 雅樂絵巻 鳥獸戯樂 正倉院 北爪道夫作曲 季節の絵本 藤家漢子作曲 瞳の色は夜の空	<b>葵祭 上賀茂神社 下鴨神社 (京都)</b> 5月15日 (月) 下鴨神社 東遊 午前11時40分 上賀茂神社 東遊 午後3時半 演奏 平安雅楽会
<b>ワサ) hakugakai@bird.ocn.ne.jp</b>	<b>前売3000円 当日3500円</b>

